

小さな水槽から見える大きな世界

国立大学法人 埼玉大学教育学部附属中学校 1年 清川 美結

私はグッピーを飼い始めて4年になる。魚たちはとてもデリケートで、水の管理がとても重要だ。飼い始めたばかりの頃は水質が安定していなかったからか、死なせてしまったこともある。最近では、水質が安定し、50匹を超えるまでに繁殖している。

熱帯魚を新しく購入した時には、「水合わせ」という作業を行う。店から買ってきた袋から、そのまま水槽に入れてしまうと、魚は慣れない環境がストレスとなり、ひどい場合には死んでしまうこともある。袋に入った状態のまま水槽に入れ、数時間かけて水槽内の水を少しずつ混ぜて慣れさせていくのだ。

また、2週間に1回は水槽を掃除するのだが、この時には必ず水質調整をする。水道水には、人にとってはよくても、魚にとっては害となる成分が含まれている。カルキ抜きのための薬を入れ、少し置く。水温を確認し、バクテリアを混ぜて水槽に入れる。1回の水質調整で交換する水の量は全体の3分の1ほど。汚れた砂利をポンプで適度に洗いながら古い水を抜くのだ。幼い頃、ぴかぴかにしようと砂利を思いきり洗い、水をかなり濁らせた上に、一気に多くの水を替えようとして親にこっぴどく叱られた。翌日、数匹の魚が死んでしまい、かなり後悔した。魚にとって、水という環境はこれほどまでに重要なのだ。

これは、小さな水槽内でのこと。地球全体でも同じ事が言えると思う。

今世界中で問題視されているのが、海洋汚染、水質汚染などの環境問題だ。私たちの生活から出る生活排水やゴミによって海や川に住む世界中の生物が困難な生活を強いられている。衰弱死した海洋生物の胃の中からゴミがでてきた、といった事例も少なくないという。環境省によると、このままいくと、2050年には海洋生物よりも海のごみの方が多くなってしまおう、ということがわかっている。

また、世界には未だ7億近い人々が安心して飲める水が身近にない。水道インフラが整っていない国々では、池や川、野ざらしの井戸にやっとの思いでたどり着いて、汚れた水を口にする。生きる為に飲んだはずの水で命を落とす子どもも多い。私なら濁った水は怖くて飲めない。でも、世界には汚れた水を何時間もかけてくみに行き、それを飲んでいる子どもたちがいる。水が透明だということをその子たちは知っているのだろうか。

このような問題を解決するために、今の私には何ができるのだろうか。まずは世界の現状を正確に知ることだと思う。その上で、できる事を考え行動する。世界の事や語学を学ぶこと。ゴミを減らす努力をすること。コロナが収束したら他の国を実際に見てみたい。

蛇口をひねれば安心して飲める水が出てくる日本に住んでいる私は恵まれ過ぎていて、地球のためにと綺麗言だけ言い、気づくと見えない所で起こっている事を忘れてしまいがちだ。グッピーの世話をする度に思い返し続けたい。いつか、誰かの役に立てるように。